

令和3年度 さいたま市立与野西 中学校 自己評価書

校長 松井 秀史



1 学校で設定し学校運営協議会で承認された「令和3年度の目標」及び関係する「評価項目」について

学校教育目標「心豊かな生徒（ゆたかに）、自ら学ぶ生徒（かしこく）、自己実現を目指す生徒（たくましく）」の具現化を目指し、学校経営方針を【凡事徹底とレベルアップ】「学校」＜与野西中のよさを継承しつつ新しい校風を創造する学校づくり＞、「生徒」＜「与野西中スピリッツ」を持った生徒の育成＞、「教師」＜保護者や地域から信頼される指導体制を確立＞とした。『希望の登校 笑顔の活動 満足の下校』のキャッチフレーズのもと、本年度の努力点として、（1）学力の定着・向上をめざした授業の工夫・改善、（2）信頼関係に立った生徒指導の充実、（3）きめ細かな指導をとおした心豊かな生徒の育成、（4）安全・安心で心潤う教育環境づくり、（5）保護者・地域等との連携協力の推進の5つを「与野西中推進プランR3」の柱とした。

2 評価結果について

○成果

- （1）保護者による学校評価の「学力の定着・向上をめざした授業の工夫・改善」に関する3項目の肯定的な評価は81.9%であった。また、生徒による学校評価の「授業」に関する2項目の肯定的な評価は、91.5%であった。G・Sの授業をはじめ、各教科で1人1台タブレットを有効に活用した結果が高い評価につながったと考えられる。
- （2）保護者による学校評価の「信頼関係に立った生徒指導の充実」に関する3項目は、すべて80%以上の肯定的な評価であった。また、生徒による学校評価の「生活」に関する5項目では、91.5%が肯定的な評価であった。教職員一人ひとりが、潤いの時間「人間関係プログラム」における直接体験の場の重要性を理解し、日々の生徒指導の充実に努めた成果であると捉えている。
- （3）保護者による学校評価の「きめ細かな指導をとおした心豊かな生徒の育成」に関する2項目は、84%が肯定的な評価であった。また、生徒による学校評価の「諸活動」に関する3項目では、95.9%が肯定的な評価であった。学校行事については、規模の縮小や形態の変更などはあったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を講じながら、工夫を凝らして学校行事を実施した評価であると捉えている。
- （4）「安全・安心で心潤う教育環境づくり」については、保護者による学校評価の「清掃や掲示、校地内緑化が充実し、潤いのある環境が整備されている。」の項目で、89%が肯定的な評価であった。日ごろの清掃活動をはじめ、きれいな学校づくりに努めてきた成果であると考えている。
- （5）「保護者・地域等との連携協力の推進」では、「学校・学年・学級だより、学校安心メール等で学校の情報を積極的に発信している」の項目について、保護者の学校評価は94.8%、生徒の学校評価は97.1%が肯定的な評価であった。新型コロナウイルスの影響で、予定の変更等が頻繁にあった中で、様々な手段で情報を発信していた結果だと考えられる。

●課題

・令和2年度と令和3年度を比較すると、生徒による学校評価では、「よい伝統や校風」「安全・安心」「元気なあいさつ」「部活動の取組」のA評価が減少した。また、保護者による学校評価では「生徒の安全確保に努めている。」のA・B評価が減少した。これらは、新型コロナウイルス感染症の影響が大きいと考えられる。「学校の新しい生活様式」を徹底しながら、生徒が充実した学校生活を送れるよう、教職員一丸となって安全・安心な学校づくりに取り組んでいく。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

「授業力の向上」にむけた具体的な取組として、今年度に引き続き、エバンジェリストを中心とした校内研修を実施し、ICTを活用した授業の工夫・改善を実践する。また、「信頼関係に立った生徒指導の充実」にむけて、生徒理解研修や生徒指導委員会、教育相談部会の内容を精選し、心豊かな生徒の育成につなげていく。日々の生徒との関わり方については、中堅教員が模範となり経験年数の少ない教員との連携を図りながら指導力向上に努めていく。保護者や地域等との連携協力については、新型コロナウイルスに対する感染予防対策を徹底しながら、学校公開等の機会を確保するなど、様々な手段を通して情報発信するよう努めていく。